

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年7月9日(2009.7.9)

【公表番号】特表2008-542280(P2008-542280A)

【公表日】平成20年11月27日(2008.11.27)

【年通号数】公開・登録公報2008-047

【出願番号】特願2008-513596(P2008-513596)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/202 (2006.01)

A 6 1 K 31/7072 (2006.01)

A 6 1 K 31/14 (2006.01)

A 6 1 K 31/20 (2006.01)

A 6 1 K 31/201 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/202

A 6 1 K 31/7072

A 6 1 K 31/14

A 6 1 K 31/20

A 6 1 K 31/201

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/18

【手続補正書】

【提出日】平成21年5月20日(2009.5.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象者における神経細胞又は脳細胞のシナプス膜に関連するリン脂質の量を増加させる薬剤を製造するためのオメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記対象者に、オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、神経細胞又は脳細胞のシナプス膜に関連するリン脂質の量が増加することを特徴とする使用。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記リン脂質は、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルイノシトール、ホスファチジルセリン又はスフィンゴミエリンであることを特徴とする使用。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記オメガ 3 脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサペンタエン酸、 α リノレン酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体で、前記神経細胞又は脳細胞のリン脂質の合成を増加させることによって、前記リン脂質のレベルを増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記対象者に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記対象者に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記対象者は、生後 0 ~ 6 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 8】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記対象者は、生後 7 ~ 24 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の使用であって、

前記薬剤は、幼児用調整乳であることを特徴とする使用。

【請求項 10】

対象者における神経細胞又は脳細胞のシナプス膜に関連するリン脂質の量を増加させる薬剤を製造するためのオメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記対象者に、オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、神経細胞又は脳細胞のシナプス膜に関連するリン脂質の量が増加することを特徴とする使用。

【請求項 11】

請求項 10 に記載の使用であって、

前記リン脂質は、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルイノシトール、ホスファチジルセリン又はスフィンゴミエリンであることを特徴とする使用。

【請求項 12】

請求項 10 に記載の使用であって、

前記オメガ 6 脂肪酸は、アラキドン酸、リノール酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 13】

請求項 10 に記載の使用であって、

前記オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体で、前記神経細胞又は脳細胞のリン脂質の合成を増加させることによって、前記リン脂質のレベルを増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 14】

請求項 10 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記対象者に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 15】

請求項 10 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記対象者に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 16】

請求項 10 に記載の使用であって、
前記対象者は、生後 0 ～ 6 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 17】

請求項 10 に記載の使用であって、
前記対象者は、生後 7 ～ 24 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 18】

請求項 10 に記載の使用であって、
前記薬剤は、幼児用調整乳であることを特徴とする使用。

【請求項 19】

対象者の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのオメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記対象者に、オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、対象者の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 20】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記オメガ 3 脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサペンタエン酸、 α リノレン酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 21】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体によって、前記対象者における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 22】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 23】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 24】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記対象者は、生後 0 ～ 6 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 25】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記対象者は、生後 7 ～ 24 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 26】

請求項 19 に記載の使用であって、
前記薬剤は、幼児用調整乳であることを特徴とする使用。

【請求項 27】

対象者の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのオメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記対象者に、オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、対象者の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 28】

請求項 27 に記載の使用であって、
前記オメガ 6 脂肪酸は、アラキドン酸、リノール酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 29】

請求項 27 に記載の使用であって、

前記オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体が、前記対象者における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 30】

請求項 27 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は CDP コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 31】

請求項 27 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 32】

請求項 27 に記載の使用であって、
前記対象者は、生後 0 ～ 6 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 33】

請求項 27 に記載の使用であって、
前記対象者は、生後 7 ～ 24 ヶ月であることを特徴とする使用。

【請求項 34】

請求項 27 に記載の使用であって、
前記薬剤は、幼児用調整乳であることを特徴とする使用。

【請求項 35】

子供の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのオメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記子供の母親に対して、前記子供の妊娠中に、オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、子供の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 36】

請求項 35 に記載の使用であって、
前記オメガ 3 脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサペンタエン酸、 α リノレン酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 37】

請求項 35 に記載の使用であって、
前記オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体によって、前記子供における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 38】

請求項 35 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記母親に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は CDP コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 39】

請求項 35 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記母親に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 40】

子供の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのオメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記子供の母親に対して、前記子供の妊娠中に、オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、子供の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 41】

請求項 40 に記載の使用であって、
前記オメガ 6 脂肪酸は、アラキドン酸、リノール酸又はそれらの代謝前駆体であること

を特徴とする使用。

【請求項 4 2】

請求項 4 0 に記載の使用であって、

前記オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体によって、前記子供における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 4 3】

請求項 4 0 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記母親に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 4 4】

請求項 4 0 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記母親に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 4 5】

子供の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのオメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記子供の母親に対して、前記子供への授乳期間中に、オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体を含む前記薬剤が接触し、それによって、子供の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 4 6】

請求項 4 5 に記載の使用であって、

前記オメガ 3 脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサペンタエン酸、 α リノレン酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 4 7】

請求項 4 5 に記載の使用であって、

前記オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体が、前記母親の母乳内に分泌されるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 4 8】

請求項 4 5 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記母親に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 4 9】

請求項 4 5 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記母親に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 5 0】

子供の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのオメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記子供の母親に対して、前記子供への授乳期間中に、オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体を含む前記薬剤が接触し、それによって、子供の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 5 1】

請求項 5 0 に記載の使用であって、

前記オメガ 6 脂肪酸は、アラキドン酸、リノール酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 5 2】

請求項 5 0 に記載の使用であって、

前記オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体が、前記母親の母乳内に分泌されるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 5 3】

請求項 5 0 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記母親に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 5 4】

請求項 5 0 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記母親に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 5 5】

対象者における脳内のシナプスのサイズ及び数を増加させる薬剤を製造するためのオメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記対象者に、オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、対象者における脳内のシナプスのサイズ及び数が増加することを特徴とする使用。

【請求項 5 6】

請求項 5 5 に記載の使用であって、
前記オメガ 3 脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサペンタエン酸、 α リノレン酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 5 7】

請求項 5 5 に記載の使用であって、
前記オメガ 3 脂肪酸又はその代謝前駆体によって、前記対象者における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 5 8】

請求項 5 5 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 5 9】

請求項 5 5 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 6 0】

対象者における脳内のシナプスのサイズ及び数を増加させる薬剤を製造するためのオメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体の使用であって、

前記対象者に、オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体を含有する前記薬剤が接触し、それによって、対象者における脳内のシナプスのサイズ及び数が増加することを特徴とする使用。

【請求項 6 1】

請求項 6 0 に記載の使用であって、
前記オメガ 6 脂肪酸は、アラキドン酸、リノール酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする使用。

【請求項 6 2】

請求項 6 0 に記載の使用であって、
前記オメガ 6 脂肪酸又はその代謝前駆体によって、前記対象者における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 6 3】

請求項 6 0 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又は C D P コリンをさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 6 4】

請求項 6 0 に記載の使用であって、
前記薬剤が、前記対象者に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含む

むことを特徴とする方法。

【請求項 65】

子供の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンの使用であって、

前記子供の妊娠中の前記子供の母親に、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンを含有する前記薬剤が接触し、それによって、子供の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 66】

請求項 65 に記載の使用であって、

前記ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンによって、前記子供における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 67】

請求項 65 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記母親に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 68】

子供の知能を向上又は増進させる薬剤を製造するためのウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンの使用であって、

前記子供の母親に対して、前記子供への授乳期間中に、ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンを含有する前記薬剤が接触し、それによって、子供の知能が向上又は増進することを特徴とする使用。

【請求項 69】

請求項 68 に記載の使用であって、

前記ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸又はCDPコリンによって、前記子供における脳細胞のリン脂質の合成を増加させるようにしたことを特徴とする使用。

【請求項 70】

請求項 68 に記載の使用であって、

前記薬剤が、前記母親に接触する、コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含むことを特徴とする使用。

【請求項 71】

医薬組成物であって、

(a) ウリジン、そのアシル誘導体、ウリジン・リン酸、及び

(b) オメガ6脂肪酸又はその代謝前駆体

を含有する医薬組成物。

【請求項 72】

請求項 71 に記載の医薬組成物であって、

コリン、その代謝前駆体又はコリン塩をさらに含有することを特徴とする医薬組成物。

【請求項 73】

請求項 71 に記載の医薬組成物であって、

前記オメガ6脂肪酸は、アラキドン酸、リノール酸又はそれらの代謝前駆体であることを特徴とする医薬組成物。